

# interview

いつもそこには、子どもたちの笑い声があった②

## 長い自問自答の末に 「シェア」に行き着きました。

(児童英語教師)

# 藤林 恵子

この細身の身体のどこに途轍もないパワーが秘められているのだろうか。どうしたら、子どもが目を輝かせ「食いついてくるか」、その一点に全精力を傾けてきた。ユニークな教授法もオリジナル教材もシェアしあい、オープンにするのが信条。あくなき好奇心は子ども以上。彼女自身、児童英語に魅入られた人なのかもしれない。



### PROFILE

【ふじばやし・けいこ】

京都府出身。上智大学外国語学部英語学科卒業。通訳ガイド国家資格、英検1級などの資格を持つ。在学中、ミズーリ州立大学コロンビア校へ留学。卒業後は企業の役員秘書を経て、専門学校で英語講師を務める。米国コネチカット州で5年間過ごした後、2001年6月から英語教室を横浜で始める。児童向け英語教材には『チャンツでポン! リズムでおぼえる英会話』『ダンスでポン! 踊っておぼえる英語の歌』『英単語でポン!』など多数。http://www.chants-depon.com/

### 熱気に包まれた勉強会

昨年の秋、神奈川県民センターを会場に第1回「THE MOST」の勉強会が開かれた。「最上級」をめざして、子どもに英語を教える先生方を中心に45名が集まった。日頃は一人で奮闘する先生数名がその日の講師役となり、レッスン法やさまざまなアイデアを披露し、意見交換する場となった。

最初に登場したのが会の代表でもある藤林恵子さん(けこりん先生)。現在、横浜市の自宅で2歳児から中学生まで週4日英語を教えるかたわら、児童向け英語教材を開発・販売している。自らの教授法をもとに教材活用法など指導するセミナーを全国30か所で精力的にこなしてきた。インターネットでは児童英語関連の複数のコミュニティの管理人を務めるなど八面六臂の活躍を続けている。

けこりん先生の発表は、自著の絵本『Let's Get Ready for Christmas!』を使って行われた。付属のCDを用いて生きた英語を耳に入れ、意味にあわせてダンスを振りつけ、絵本のイラストをダウンロードしてそのまま教材として利用できる仕組みなどが紹介された。子どもの興味を最大限引き出すアイデアや発表の工夫なども示され、先生方のまなざしは真剣みを帯びていた。



「THE MOST」の勉強会の模様。児童英語の先生方に話しかける藤林さん。

自分の学びをオープンにすると、別の先生のヒントになり、その生徒さんの力も上がります。

けこりん先生の「What do you want for Christmas?」のチャランツに参加者が「A boyfriend!」と答える一幕もあり、会場は和やかな笑いに包まれていた。「いろいろなアイデアを皆さんとシェアしたいと思いますね。教えるテクニクやレッスンのネタ、教室運営で困っ

たときの対処法など、自分の学びを仲間にオープンにすると、別の先生のヒントになり、その生徒さんの力が上がります。それが波のように広がれば、児童英語教育全体の底上げができるのではないかと思うのです。またシェアする的小伙伴とフィードバックもあるのですよ。私自身、与えて損したと思っただことは一度もなく、多くのことを学ばせてもらっています。この会は教材を超えてシェア精神でつながる児童英語の会に育てたいです」と勉強会の意義を笑顔で話してくれた。

藤林さんは大学在学中、アメリカへ

の留学を経験。卒業後は英語を生かした職業に就こうと、通訳ガイドの国家試験にも合格し、英語学校で教鞭をとったこともあった。その後、アメリカで子育ても経験。英語の絵本を読み、現地の幼稚園や小学校でボランティアをし、季節ごとのイベントも子どもと楽しんだ。英語を子どもに教える仕事は、自分の中で自然の流れと話す。あとは持ち前の分析力と探究心で、子どもの目を輝かせる教授法を自問自答しながら時間をかけて深化させていった。

めざすところは、ホンモノの英語力の基礎をしっかりと作り、中学以降、英

# KEIKO FUJIBAYASHI



児童英語教材でヒットを続ける「ポン! シリーズ」

語が得意の子を増やすこと。

「ナチュラルな発音を常に心がけています。日本語のカタカナに音を置き換えさせないことが大切です。また歌ったり踊ったり、ゲームしたり、といった全身を使ったレッスンや異文化に触れる絵本の活用など、年齢に応じた教え方を実践しています」

## 小学校英語必修化の実施

近年、児童英語教育に熱いまなざしが注がれている背景のひとつが、2011年度に公立小学校の5・6年生を対象に実施された外国語活動（英語）の必修化だ。アジアに目を転じれば、2001年頃までには、韓国、台湾、中国をはじめ多くの国で小学校での英

語教育は導入済みである。遅れること約10年、日本でも高学年に英語がやっと入ったのである。

藤林さんの恩師でもある上智大学外国語学部英語学科の吉田研作教授は次のように話してくれた。

「小さい頃から英語に親しんだ人のほうが英語に対するモチベーションが高く、外国語に対して好意的な気持ちが強まる傾向にあります。それがコミユニケーション力の、またグローバル人材としての素地になる。個人のアイデンティティーが確立してしまつてから英語をはじめると、外国語を異質なものとしてどこかで受け入れにくい感覚が残りがねません。将来、毎日英語を使って仕事をするような状況になると、小さいころに経験して得た素地の意味は大きいと思います」

導入に関しては以前から異論があったが、すでに導入され大きな成功を収めている学校もあれば、そうでないところもあり、学校間の格差は大きいと言わざるを得ない。現在多くの小学校では担任教師がALT（英語補助教員）の支援のもと英語教育の指導に当たっている。課題点も浮き彫りになってきた。英語が得意ではない小学校教師の負担感は大きい。授業時間にだけ来るALTとの打ち合わせも難しい。カードなどの補助教材がまだ準備できていな

いところも多い。また違う目標で作られた小学校と中学校の英語をどのように連携させていくかなどの懸念もある。音楽のように、英語専科の教師を養成し、いずれは英語が小学校でも教科になるのではと吉田教授は展望する。

小学校英語活動は語学教育的な側面だけでなく、子どもの新しい面を引き出す場にもなっているという。新しい言語に触れ、言葉を発し、リズムをとったり、体を使ってゲームしたり、寸劇をやったり、自己表現の場に参加できる。子どもにとっては未知の広い世界への扉が開かれる出発点ともなる。そんな魅力と可能性にあふれる活動が公教育で導入された意義は大きい。あわせて、



上智大学の吉田研作教授と久しぶりの歓談。写真／鐘田浩章



何か別のよい方法があるんじゃないか、  
だれもがアンテナを張りめぐらせているんです。

日本語そのものへの理解も英語を通して  
深められればよいと思う。

### 児童英語教材は使い倒せ

「私の教室では、自然な英語らしい  
リズム（チャンツ）で英文を歌うよう  
に音読し、まるごと体と頭に入れてし  
まう反復練習を重視しています。小さ

い頃からはじめた子は小学校低学年で  
英検5級を受けられるくらいになりま  
す。これは中学1年生レベル。4級・  
3級も高学年でクリアできるプログラ  
ムを組んでいます。英検はリスニング  
の配点も高く、会話の力をみる問題も  
あるので、ひとつの指標でもあり、子  
どもたちも挑戦したがりです。『聞く、

話す、読む、書く』の4つの基礎を楽  
しく身につけます」とけりりん先生。

小学2・3年生のレッスンにお邪魔  
した。子どもたちは宿題のノートを手  
に「先生、こっち！見て、見て！」と  
先生に飛びつく勢い。テーブル席での  
授業は、CDのチャンツに合わせて、テ  
キストを繰り返し音読し、先生の質問  
には大きな声で答えていた。発音練習  
の後は、単語当てクイズやカードを用  
いた会話ゲームなど待ちに待ったアク  
ティビティ中心の授業。子どもたちは、  
ある時は大まじめ、ある時は笑いころ  
げながら、身体全体で英語を吸収して  
いるように見受けられた。

藤林さんに転機が訪れたのは、イン  
ターネットとの出会いだった。  
2005年に、ネットでビジネスをす  
る友人の刺激もあって、メルマガ発行。  
さらに現在5300人を超えるコミュニ  
ニティに成長した「こどもに英語を教  
えたい」の立ち上げを皮切りに、現在  
全部で6つのミクシイのコミュニニ  
ティの管理人をこなす。

「人というのは、楽しくて役立つこ  
とに集まるということに気づきまし  
た。双方向性が強いミクシイでは、ど  
んどん井戸端会議的なものに発展して  
いきます。参加者の皆さんがアイデア  
でも悩みでも、その時々々のトピックを  
自由に書き込める場です。問いかけれ

# KEIKO FUJIBAYASHI



小学2・3年生のクラス。子ども一人ひとりが目を輝かせて、「英語大好き」という熱意まで伝わってくる80分間授業だった。

ば、ほぼ確実に反応がある。共通項のある仲間と、ゆるやかにつながっているのが心地よいのです」

けこりん先生はオリジナル教材を自身のサイトやアマゾンでも販売する。『チャンツでポン!』をはじめとする『ポン! シリーズ』は、口コミ中心に着実に売り上げを伸ばしてきた。教育に関心がある一般層だけでなく、児童英語の先生方や幼稚園・小学校の先生が多く買い求めている。英語の音とリズム、それに読みを軽快な音楽に乗せて、またダンスを交えて身につけさせようというのが「けこりん教材」のねらい。教材ごとのコミュニティにも多

くの利用者が参加して、効果のほどや活用法など活発な意見交換が継続的に行われている。

「誰も井の中の蛙かわずでいられなくなりました(笑)。十数年前なら一国一城あるじの主で自分のレッスンがベストと信じ、同じことを続けていればよかった。でも今は、こんなにいい教材があるよ、こんな活用法もあるよ、うちの生徒はこんなにできるよ(笑)、とネットを覗けばお隣の芝生が見えてしまう。皆、自分のやり方に不安を持っていて、何か別のもっとよい方法があるんじゃないかと、アンテナを張りめぐらせている。私自身がそうですから。ひらめい

たアイデアをラッキーと自分だけで囲って、他の人に見せないという時代は終わったんじゃないでしょうか」

藤林さんは、子どもの声に耳を傾け、勉強会では先生方と喧々諤々けんけんがくがくの意見交換を行う。日々、ネットでは新しいアイデアを求め、発信し続ける。こつこつと児童英語の礎を築こうと懸命に走り続ける。立ち止まることのない足跡には「シェアの精神」が脈々と息づいている。何事にも冷静で緻密、たまにドジっても笑って乗り越える、そんな強さも人気の秘密。そんなけこりん先生を教え子たちも、理想の教師として憧れを抱く先生方も愛してやまない。